

単元 資質・能力	実施時期															質的ルーブリック（判断基準）		
	1 学期					2 学期					3 学期					考え・基礎知識 (Ideas)	つながり (Connections)	応用・ひろがり (Extensions)
	古今著聞集「大江山」	世説新語「漱石枕流」	蒙求「季札挂剣」	更級日記「あこがれ」	更級日記「源氏の五十四巻」	古文真宝「漁父辞」	源氏物語「光源氏の誕生」	源氏物語「北山の垣間見」	史記「鴻門之会」	史記「四面楚歌」	枕草子「中納言参り給ひて」	孟子「不忍人之心」	荀子「人之性悪」	大鏡「花山天皇の出家」	大鏡「肝試し」			
古典で使われていることばや漢字の意味, 用法を理解できる能力	○				◎	○		○	○	○	○		○	○	○	言葉の意味を古今異義, 同義, 類義として整理し, 文法・句法を理解できる。	文脈に即して, 語彙の意味や文法的用法を適切にとらえ, それを手がかりとして正確に文章を解釈できる。	既習の古語や文法を用い, 現代語で表した自己の感情を, 古語の詩歌などで表現できる。
文章の叙述に即して構成, 展開を理解し, 内容や要旨を的確に把握する力		○	○		○			○	○		○	○	○	◎		文章の段落構成や展開を把握することができる。	文脈を理解し, 文の構造から, 省略を補って読むことができる。	結論に至る筆者の思考過程を読み取り, 主題や執筆意図を理解できる。
登場人物の言動や描写から, その心情や考えを読み取る力	○	○	◎	◎	○	○	○	○		◎				○	◎	歴史的, 文化的な背景の知識に基づいて言動や心情を理解することができる。	付属語の文法的意味を読解に生かしながら, 行間にある考え, 心情を読み取ることができる。	詩歌などの韻文を詞書きや前後の文脈から状況や心情をふまえて鑑賞できる。
人間, 社会, 自然に対する書き手の思想や感情を的確に捉える力			○	○			○				◎		◎			人間関係や社会的背景をふまえて, 書き手の考えや心情を理解できる。	書き手の考えや感じ方を共感的に, もしくは批判的に読むことができる。	自分の身近にある人や社会, 自然を自分なりに分析して論じることができる。
古人のものの見方, 感じ方, 考え方を理解し, 自己の思考力, 判断力, 感性を培う能力		◎			○			○	○			◎	○	○		文章に即して筆者の考え方や思想を理解することができる。	書き手の価値観や登場人物の生き方と自己の価値観との違いについて考え, 自己の意見をまとめることができる。	現代の問題を, 書き手や登場人物の立場で考察することができる。
古典の内容や表現の特色を理解し, 作品の価値を認識する力	◎			○			◎			○	○				○	文体の特徴や修辞法など表現の特色が理解できる。	巧みな描写や繊細な表現, リズムにより思想や感情がどう表現されているか理解できる。	歴史の中で読み継がれた普遍的価値に気づき, 現代での意味を考えることができる。
古典を通して日本の文化の特質と中国文化との関係について理解する力						◎			◎	○		○				書き手や作品の個性や価値が理解できる。	思想史や故事成語の成立過程を理解し, 両文化の関連性や相違に気づくことができる。	中国と日本の文化の両面から, 我が国の伝統的言語文化の奥深さや価値を尊重できる。
主な学習活動	発表	発表	討議	発表	文章作成	討議	発表	文章作成	発表	討議	発表	討議	発表	発表	討議			

意欲・態度, 価値観・倫理観	考え・基礎知識 (Ideas)	つながり (Connections)	応用・ひろがり (Extensions)
自己を取り巻く世界の諸課題に挑戦するための学ぶ目的の理解や学び方を習得する能力。	「何のために」「最終的にどうなるのか」を考えてまなぶことができる。	「どうやったら身に付くのか」を考えて, 学ぶ方法を試行錯誤し, 自分なりのやり方を身につけることができる。	自分の「できること」「意味あること」「やりたいこと」をもとに, 自分と社会との関係を考え, キャリア形成を生涯にわたり主体的にできる。
論理的思考力, 表現力, 及び他者を理解して協働する力。	自己の個性や適性を理解し自らの思考や感情をコントロールできる。	問題を発見・解決したり, 多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり自己の考えを深めたりできる。	自らの役割を果たしつつ, 多様な人々と協働しながらよりよい人生や社会を築くことができる。
部分と全体のつながりを理解する力, 及び結論に至る過程を表現する力。	今学んでいることが, 全体の中でどの位置づけなのか理解できる。	部分的な知識を分類したり統合したりして, 考えたり行動したりして, 問題解決に導くことができる。	「なぜそう思うのか, 考えるのか」を他者に説明し, 他者の「なぜそう思うのか, 考えるのか」が分かり, 相互理解を深めることができる。